１　国宝・重要文化財（建造物）

（１）新規指定の国宝（建造物）

名　　称	萬福寺（まんぷくじ）	棟 数	３棟
所 在 地	京都府宇治市五ケ庄（きょうとふうじしごかしょう）三番割（さんばんわり）		
所 有 者	宗教法人　萬福寺		
指定基準	（一）重要文化財のうちで極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの		

建 物 名	構　造　形　式	建 立 年 代
大雄宝殿（だいおうほうでん）	桁行三間、梁間三間、一重もこし付、入母屋造、本瓦葺、正面月台附属	寛文８年（1668）
法堂（はっとう）	桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、こけら葺	寛文２年（1662）
天王殿（てんのうでん）	桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、本瓦葺	寛文８年（1668）

［解説］

萬福寺は、近世中期に中国より移入された禅宗の１つである黄檗宗（おうばくしゅう）の大本山である。中国の高僧隠元隆琦（いんげんりゅうき）が、四代将軍徳川家綱を大檀越として創建した。大雄宝殿・法堂・天王殿は、寛文年間（1661-73）の建築で、中国の福州にある黄檗山萬福寺に倣って整えられた壮大な伽藍の中心的な堂宇（どうう）である。蛇腹（じゃばら）天井や太鼓型・角型の礎盤（そばん）、両開きと片開きを並べる明障子付唐戸（からと）、中国風意匠の半扉（はんとびら）、大雄宝殿の大棟上の宝珠など、明代末期から清代初期における中国仏教建築の手法を取り入れ、我が国の既存の寺院建築手法と折衷した独自の建築様式を代表するものである。また、千余りを数えた黄檗宗寺院の建築の規範として極めて高い価値を持つ。さらに、萬福寺伽藍を起点に全国に伝播・浸透し、我が国に多大な影響を及ぼした建築・芸術・煎茶等の食文化を含む生活文化等の新たな文化を象徴するものであり、深い文化史的意義が認められる。

萬福寺境内　全景（萬福寺提供）

萬福寺大雄宝殿　外観（萬福寺提供）